

## 賛助会員訪問記

日立金属株式会社 磁性材料カンパニー（山崎地区）訪問

（ホームページ：<http://www.hitachi-metals.co.jp/>）

平成 26 年 9 月 22 日（月）13 時～15 時 30 分、日立金属株式会社 磁性材料カンパニー（山崎地区）[大阪府三島郡島本町]を、杉田龍二総務理事、押木満雅事務局長および杉村比登美事務局職員の三名で訪問した。磁性材料研究所の徳原宏樹所長および古澤克佳開発企画グループ長に対応していただいた。はじめに、古澤氏より、日立金属グループの事業や磁性材料研究所と山崎製造部がある山崎地区のご説明をいただいた。日立金属の事業は、高級金属製品、磁性材料、高級機能部品および電線材料の 4 本柱で成立っている。山崎地区は元々、住友特殊金属株式会社の研究所・工場で永久磁石やソフトフェライト等の研究開発、製造などを行った事業所であったが、2004 年に日立金属グループに入った。現在約 350 名の従業員を擁し、磁性材料の研究開発、磁気センサーおよび薄膜磁気ヘッド用基板 AlTiC（アルミナと TiC のセラミック）製造などを行っているとのこと。次に、徳原氏から磁石の高性能化への取組みをご説明いただいた。磁石の高性能化に不可欠な希土類元素は政治や国際情勢に左右されて価格高騰など供給に不安定要素がある。そのため、重希土類元素使用量の低減を目指して、磁石の材料組織、特に粒界に着目した研究開発を進めており、その成果が実り製品が市場に出るようになった。またフェライトについては、中国勢に対して高性能化で対抗すべく、Hc と Br が共に大きく、低温で減磁の少ない製品開発を行いモーター重量軽減が可能となり多くの車載需要に応じている事などのご説明をいただいた。

その後、山崎製造部 鈴木氏の案内で別棟の薄膜磁気ヘッド用基板製作、磁気センサー製作のクリーンルームを、また磁性材料研究所 河合氏の案内で分析センターを見学させていただいた。薄膜磁気ヘッド用基板製作は、材料の AlTiC を、所定の厚み、平坦度に研磨加工する工程で廊下からは研磨加工機が多くみられ、奥の方には顧客の需要に応じて成膜対応するためのスパッタ装置があるとの事。現在では 6～8 インチφが主流で世界の 7 割以上のシェアを獲得している。磁気センサーはダウンフローの部屋で薄膜磁気ヘッドプロセスを流用して製作されており、現在 2 交替の少ない人数で効率良く運営することに心がけているとの事である。また、分析センターでは多くの分析装置が並び、材料への視点を大切にしている姿勢をうかがい知ることが出来た。

今回の訪問で、幾多の変遷を経て今日の事業所となっている状況がわかり、次々に高度化する社会の要求に答えてビジネスにしてゆこうとする企業姿勢を感じた。（押木 記）



取材風景



日立金属株式会社 磁性材料カンパニー（山崎地区）